

## 第91回 全国安全週間を迎えて

平塚労働基準監督署長 池田 有他

神奈川労務安全衛生協会平塚支部及び会員事業場の皆様方におかれましては、日ごろから労働災害の防止に積極的に取り組んでおられることにつきまして、心から敬意を表したいと存じます。

さて、本年も「**新たな視点でみつめる職場 創意と工夫で安全管理 惜しまぬ努力で築くゼロ災**」をスローガンに6月を準備期間、7月1日から7日までを本週間として第91回全国安全週間が展開されます。

同週間は「人命尊重」の基本理念の下、職場における自主的な労働災害防止活動の推進、安全意識の高揚と安全活動の定着を図ることを目的に、昭和3年から一度も中断することなく続けられており、この間労働災害を防止するために、各事業場では労使が協調して労働災害防止活動が展開されてまいりました結果、労働災害は着実に減少し、昨年の全国の労働災害による死亡者数は全産業で978人と3年連続で1,000人を下回っております。

一方、休業4日以上死傷者数は、長期的には大幅に減少してはいるものの、全産業で120,460人と平成20年に12万人を下回って以来、再び12万人台となるなど災害の減少傾向はかげりを見せ、横ばいの状態となっております。

また、昨年度までの5年間にわたり第12次労働災害防止推進計画を実施しており、神奈川労働局として全産業で死亡災害、死傷災害ともに15%減を目標としておりましたところ、残念ながら目標達成は成りませんでした。平塚労働基準監督署管内については、昨年の労働災害による死亡者は3人、死傷災害については基準年である平成24年の445人から22人減(4.9%減)の433人と減少はしたものの目標は達成できませんでした。

このような状況下、労働災害を更に減少させていくためには、今年度から新たに5年の期間で進める第13次労働災害防止推進計画の重点となっている製造業、建設業での死亡・重篤災害の撲滅、死傷災害が増加、もしくは横ばい状態にある陸上貨物運送事業(運送及び貨物取扱業)、小売業・飲食店並びに労働者数が増加傾向にある社会福祉施設といった業種に焦点をあてた対策、労働災害の型として発生が一番多い転倒災害のほか腰痛災害、クレーン・移動式クレーンの玉掛け作業に起因する災害、熱中症など事故の種類に注目した対策及び職場における「危険の見える化」により、危険要因を目に見えるようにすることで災害を回避するなどの対策にも取り組まれますようお願いいたします。

また、熱中症による死亡災害ゼロを目指して5月から9月までの期間(7月が重点取組期間)各災害防止団体等と連携し熱中症予防対策の徹底を図ることを目的に昨年より展開しております「STOP! 熱中症 クールワークキャンペーン」についても御理解の上、取組みをよろしくお願いいたします。

会員事業場におかれましては、全国安全週間を機に経営トップによる安全への所信表明、職場の総点検等各種行事や取組みを行うことで労働災害防止の重要性の認識をさらに深めていただき、安全文化を醸成するための安全衛生活動を引続き推進していただければ幸いです。

最後になりましたが、会員事業場と皆様方のますますの御発展と御健勝をお祈り申し上げます。

平成30年度 全国安全週間スローガン

「**新たな視点でみつめる職場 創意と工夫で安全管理 惜しまぬ努力で築くゼロ災**」

# 全国安全週間 平塚地区促進大会

「新たな視点で見つめる職場 創意と工夫で安全管理 惜しまぬ努力で築くゼロ災」のスローガンのもとに、去る6月8日(金)平塚市中央公民館大ホールにおいて、「第91回全国安全週間平塚地区促進大会」が開催されました。

昭和3年から、広く一般の安全意識の高揚と安全活動の定着を図ることを目的として開催されている歴史あるイベントです。

オープニングは湘南鼓連の太鼓演奏で始まり、建設業労働災害防止協会神奈川支部平塚分会(以下建災防)分会長佐藤様、平塚労働基準監督署長池田様、平塚市長落合様のご挨拶で始まり、平塚労働基準監督署安全衛生課長川村様より本週間の趣旨として、労働災害発生状況、全国安全週間の実施要綱、第13次労働災害防止計画要旨について説明をいただきました。

その後、休憩をはさみ、特別講演として「具体的事例から学ぶ過重労働と安全(健康)配慮義務」を題として、森井労働法務事務所の森井博子所長より講演をいただきました。実際の裁判事例を紹介し

ながら、過重労働による健康障害について「働く人を大切に」するという基本のもと、企業は安全(健康)配慮義務に積極的に取り組んでください、とのことでした。

最後に、建災防副分会長武井様より閉会の挨拶があり、本大会を終了しました。

(株)藤田電機製作所 小笠原 記



## ■労働災害発生状況 (労働者死傷病報告件数)

(平成30年5月末現在)

		製造業	建設業	運輸業	陸上・港湾貨物 運送取扱業	その他	計
平 塚 労働基準 監督署	平成30年1月~5月 うち死亡災害	40 0	15 0	5 0	20 0	88 0	168 0
	平成29年 うち死亡災害	82 2	41 0	19 0	54 0	237 1	433 3
	平成28年 うち死亡災害	94 0	51 0	26 0	49 0	227 1	447 1
神 奈 川 労働局	平成30年1月~5月 うち死亡災害	324 2	228 3	122 0	297 1	1,114 3	2,085 9
	平成28年 うち死亡災害	1,022 6	730 6	353 0	925 5	3,521 13	6,551 30
	平成29年 うち死亡災害	1,012 3	821 9	338 2	859 2	3,568 12	6,598 28



## 「ヘルスリテラシー」

古河電気工業(株)平塚事業所衛生管理室 眞壁 亜紀子



今年もまた暑い季節がやってきました。7月は熱中症予防強化月間ですね。「熱中症予防のためには水分補給は大切」は、今では常識ですが、ひと昔前は「運動中に水を飲んだらダメ」が常識でした。今では、それは危険で非常識だと広く認識されてきています。

“昔の常識は今の非常識”のようなことは、技術や研究が進んだ現在では、様々な分野で見られます。もちろん、

健康や医療分野も同じです。

ですが、科学的根拠のある健康や医療情報が増えている一方、間違った情報も溢れており、健康格差の問題も大きくなっています。そこで注目されているのが、個人のヘルスリテラシー(健康や医療情報に関する情報を入手し、理解し、評価し、活用する力)の向上です。

従業員一人一人のヘルスリテラシー向上のためにも、今後も産業保健職の皆さんと共に学んでいかなければと思う、今日この頃です。

# 『神奈川県労働局 第13次労働災害防止推進計画』の概要

労働災害を少しでも減らし、安心して健康に働くことができる職場の実現に向け、2018年度を初年度として5年間にわたり国、事業者、労働者等の関係者が目指す目標や重点的に取り組むべき事項を定めた「第13次労働災害防止計画」が厚生労働省により策定されました。厚生労働省策定の第13次労働災害防止計画、神奈川県内における労働災害発生状況、第12次労働災害防止推進計画期間中の取組の評価及び就業構造の変化等を踏まえ、神奈川県労働局は、第13次労働災害防止推進計画（以下「第13次防」という。）を平成30年5月9日に策定しました。第13次防は、計画期間中の具体的な目標、神奈川県労働局が取り組むべき課題及び基本的対策を示したものであり、今後、その実現に向けて具体的施策を講じます（第13次防計画の本文、概要及びパンフレットは厚生労働省ホームページに掲載されています。）。

## 1. 目指す姿

- ア 「働くことで生命が脅かされたり、健康が損なわれたりするようなことは、本来あってはならないという意識」をすべての県民及び県内企業が共有し、「誰もが安心して健康に働くことができる労働環境」を実現する。
- イ そのために、行政、労働災害防止団体、業界団体、事業者、労働者、発注者、専門家など、すべての関係者が連携・協働して第13次防の達成に向けた取組を推進する。

## 2. 期 間 2018年度から2022年度までの5か年を計画期間とする。

## 3. 計画の全体目標

- \*2022年までに、神奈川県内の労働災害による死亡者数を**15%**以上減少(2017年比)
- \*2022年までに、神奈川県内の労働災害による死傷者数を**5%**以上減少(同上)

【 2017年(比較基準年): 死亡者数 <b>30</b> 人、 死傷者数 <b>6551</b> 人 】
【 2022年(最終目標): 死亡者数 <b>25</b> 人以下、 死傷者数 <b>6223</b> 人以下 】

## 4. 重点事項

- (1)死亡災害の撲滅を目指した対策の推進
  - ①建設業における墜落・転落災害等の防止
  - ②製造業における施設、設備、機械等に起因する災害の防止
  - ③熱中症対策
- (2)過労死等の防止等の労働者の健康確保対策の推進
  - ①労働者の健康確保対策の強化
  - ②過重労働による健康障害防止対策の推進
  - ③職場におけるメンタルヘルス対策の推進
- (3)就業構造の変化及び働き方の多様化に対応した対策の推進
  - ①災害の件数が増加傾向にある又は減少がみられない業種等への対応
  - ②高齢労働者、非正規雇用労働者、外国人労働者及び障害者である労働者の労働災害の防止
- (4)疾病を抱える労働者の健康確保対策の推進
  - ①企業における健康確保対策の推進、企業と医療機関の連携の促進
  - ②疾病を抱える労働者を支援する仕組みづくり
- (5)化学物質等による健康障害防止対策の推進
  - ①化学物資による健康障害防止対策
  - ②石綿による健康障害防止対策
  - ③受動喫煙防止対策
  - ④粉じん障害防止対策
- (6)企業・業界単位での安全衛生の取組の強化
  - ①安全衛生専門人材の育成と活用
  - ②企業のマネジメントへの安全衛生の取込
  - ③労働安全衛生マネジメントシステムの普及と活用
  - ④関係行政機関及び働き方の多様化に対応した対策の推進
- (7)安全衛生管理組織の強化及び人材育成の推進





## 雑感 『一日一万歩』

株式会社トープラ 人事課 橋本 紳司

最近、従業員の健康増進を重視し、健康管理を経営課題としてとらえる健康経営という言葉をよく耳にするようになってきた。そんな中で、当社も「健康宣言」というものを掲げて生活習慣病対策をはじめ健康施策に取り組んでいます。

人事部門でこの施策を推進する者としては、まずは自分から何かやろうと決めました。普段から電車、バスでの通勤でも歩いているので、手軽に出来ると思い「1日1万歩以上歩く」ことを目標に今年3月より始めました。ところがいざ始めてみるとこれが意外に難しく、まず最初に驚いたのが、これまでの普段の生活では、1日4,000歩から5,000歩しか歩いていないことでした。そこで、会社の中では、歩数を意識して他部署へ行くときも少し遠回りしたり、昼休みに構内を歩いたりしましたが、結局7,000歩から8,000

歩程度と目標の1万歩には程遠く、予想以上にハードルが高いと感じました。結局1日1万歩以上歩くためには、歩数を稼ぐために社内での移動も遠回りしたり、更に通勤時自宅を少し早く出て、駅までを遠回りしたり、最後は帰宅時に駅から自宅まで歩く距離を調整し、1万歩超えてから自宅に戻るなど目標を達するために逆にストレスを感じる結果となりました。これでは何のための健康増進かと思いつつその後は、ストレスにならない程度に歩くことを意識しながら普段の生活を続け、3ヶ月が経過した現在は、1日平均8,000歩位のペースでの生活となりました。目標の1日1万歩には届きませんでした。以前から比べると歩数は約2倍となりませんが残念ながら体重、体形には今のところ変化は見られません。これから暑くなりますが、1日の歩数が少なくならないように心がけていきたいと思っています。

### 支部講師紹介

#### 小野 房男 氏



**担当講習** 「1トン未満のフォークリフト運転特別教育」

**家 族** 愛妻とふたり(子供たちはそれぞれ独立)

**趣 味** ゴルフや定年後に始めた水泳(バタフライ)で身体を鍛えること

**そ の 他** パワーポイントの他、手作りの道具を使っての講義が特徴。

緊張をほぐしながらの落ち着いた講義は、受講生の表情を見ながら、時には冗談、時には厳しい言葉もかけながら、解りやすい言葉での説明は受講生に定評がある。



## 編集後記

梅雨空が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。私は、サッカーのワールドカップをテレビ観戦しており、寝不足の日々が続いております。

さて、梅雨が明けると夏本番になります。夏と言えば、海を思い浮かべる方も多いと思います。そこで紹介したいのが、宮古島です。宮古島は大小8つの島からなる宮古諸島の主島で、周囲の海は宮古ブルーと称され、群を抜く美しさです。

私は、一昨年初めて宮古島に旅行に行った際に、綺麗な

海と島独特の雰囲気にも心を奪われました。昨年も行きましたが、三年連続となる今年も行く予定です。

おすすめの楽しみ方としては、ドライブで、ビーチや隣接する島を巡り、のんびり過ごすことです。きっとお気に入りの場所や景色が見つかるはずです。

また、ご存知かもしれませんが、実は今年の安全週間のポスター(B1判)には、宮古島と来間島を結ぶ来間大橋が掲載されています。宮古島には来間大橋以外にも伊良部大橋、池間大橋とそれぞれ伊良部島、池間島を結ぶ橋があり、いずれも絶景が味わえます。

まだ夏の予定が決まっていない場合は、宮古島を訪れてみてはいかがでしょうか。癒されること間違いなしです。

スタンレー電気株式会社 加藤 記